

9月12日 八雲保育園の公開保育を実施しました

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
昭光保育園	朝来幼稚園
相愛保育園	倉梯幼稚園
平保育園	中舞鶴幼稚園
タンポポハウス	三鶴幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
やまもも保育園	
ルンビニ保育園	
八雲保育園	



神戸大学大学院准教授 北野幸子先生をお迎えし、今年度初めての公開保育が八雲保育園で行われました。

雨ではありましたが、保育者と子どもと相談しながら環境を整え、自分たち自身で遊びを選び工夫する姿や、その工夫を伝え合う姿もありました。毎日の子ども時間の遊びが共有され、つながっていることが感じられました。また、園の環境のすばらしさは、参加者からも関心が高く、参考にしたという声が多く聞かれました。

今年度から、公開園には、事前に乳幼児教育コーディネーターと協議をして「公開保育の研究テーマ」と「公開保育の視点」について明確にさせていただきました。参加者には、「公開保育の視点」に基づいて保育を見て、その保育についてグループワークを行い、語り合う場を設けました。

【公開保育テーマ】

毎日、子どもペースで遊ぶ「子ども時間」から1日がスタートし、子ども達が自らの興味、関心をもとに遊びを選び、異年齢で交流し合いながら活動している。又、そこで得た発見や気づき、つまづきなどを保育者と子ども達がふり返りの中で共有し、明日の保育へとつなげている。

【公開保育の視点】

子ども自身が興味・関心をもとに選んだ遊びの中で、子ども自ら考え遊んでいるか、工夫をしているか、自分の思いや発見を言葉にしているか、友達同士で伝え合っているか、その中で学びを深めているかを意識しながら保育している。年齢発達なりのこのような子どもの姿を見とってほしい。

公開保育

素材・教材の工夫や豊かさが、こだわりやより本質を意識させている

～北野先生 コメントより～

幼稚園教育要領、保育所保育指針にあるように幼児教育は環境を通じた教育です。八雲保育園の環境は、子どもの興味・関心を起点とした環境、発達を意識した環境、遊びをおもしろくする環境など、至るところに工夫や意図が感じられました。その一部を子どもの姿や写真、北野先生のコメントと共にご紹介します。

【0～2歳の室内環境】

0～1歳児のお部屋には、体を動かして遊ぶように階段や斜面の運動遊具が置かれ、手先を使って遊ぶように洗たくばさみ、S字フック、マジックテープ、ひも通し等の素材や道具を準備さ



れ、楽しくなる遊びたくなるような工夫が随所にされていました。

2歳児のお部屋には、ごっこ遊びが十分に楽しめるようにお店やさん(パン屋さん)やままごとコーナーがあり、パンに見立てた小麦粉粘土を楽しんだり、やりとりする姿も見られました。



【こだわりのケーキ・コーヒー・ジュースを作って楽しむコーナー】

石けんと水を泡立ててクリームを作り、自然物をトッピングしてこだわりのデコレーションケーキや砂や泥を混ぜて量や色合いにこだわったコーヒー等を作ることを楽しんでいました。また、ヨウシュヤマゴボウ等の自然物を使った思い思いの色合いのとっておきのジュースを作ったり、お客さんにすすめたり、一人一人の工夫や思いの入った遊びが見られました。



【北野先生 コメント】

◎子どもがよく動いている。友達顔を見て笑っていることが多い、目の中までしっかり見ている。子ども同士のいい関係ができている。保育者がいかに丁寧に接しているか、子どものペース、一人一人に丁寧にに関わり、子どもより先に行かない(先導しない)ことを大事にしていることがわかる。

◎色、音、形、動き、イメージ等の乳児保育で大事にしたい環境がある。隠れたり、消えたり、飛び出したり、指先の動きもある。

【北野先生 コメント】

◎お皿についた泥を子どもがぞうきんでふいている。→お皿をきれいにしたい。こだわっている。本物、本質を意識している。カップとソーサーの量・数と種類等の**素材・教材の工夫や豊かさが、こだわりやより本質を意識させている。**

◎泥が固まったケーキに泡のクリーム、自然物でデコレーション等→こだわりがあってよかった。

【園庭】

園庭の真ん中に土山があり、この日は、丸太や材木を組み合わせてあり、2、3歳の子供達が車に見立てて遊んでいました。そこには、5歳児が関心を持っているペットボトルの風車が様々な角度で立っており、風の向き、強さ等まさに風を感じられる環境構成がなされていました。

3歳児にはじっくりと遊べる空間が準備され、そこで4、5歳児のしていることを模倣したり、自分なりに試したりしていました。



【北野先生 コメント】

◎平地のただ広い園庭ではなく、土山があるのがよい。動線も楽しめるように考えられている。

◎風車→風を感じられる。風車の角度が1つずつ違う。調べたり、比べたりができる。

◎自由度が大きい、やりたい遊びが自分で選べる環境にちゃんとある。

◎2、3歳の時点で骨格ができており、しっかり遊べていることがわかる。

◎少し離れたところに3歳児が異年齢児の姿を見て、自己発揮できる環境があるのがよい。2、3歳児は端の方が落ち着く。

つづき

【室内】

各保育部屋には、こま遊びやおしゃれ工房、ステージ、お医者さんごっこコーナー等、遊戯室には、紙飛行機や光遊びのコーナー等の子どもの興味・関心をもとに環境構成されており、子ども自身が選んで遊ぶ姿が見られました。



【ドキュメンテーション・展示】

廊下や部屋のいたるところに今まで経験してきた発見や

調べたりしたことがそのものの展示やドキュメンテーションで可視化されており、子どもの学びを更に深めたり、広げたりするきっかけになっていました。



【北野先生 コメント】

◎ステージとお医者さんごっこのコーナーが同じ部屋にあると音が気になるのではないかと。ステージの上にある衣装は裏方に置いてはどうか。お客さんに「見せる」ことを意識した時、見せる場所、見せない場所を分けると、より「見せる」ことを意識できる。鏡を置くかどうか、どう見せるかという意識にもつながる。

◎音環境については音量、スピーカーの位置等配慮してほしい。

◎こま回しは、振り返りの際取り上げられたことで子どもたちがまた遊び出していた。こまにする素材に改めて意識がいくようになった。

【北野先生 コメント】

◎ゴーヤを開いた時の絵は、子どもが発見した時の驚きや感動がそのまま伝わってくる。こだわりのある絵になっている。

◎重さや種の比較等、気づきを誘いかける展示物がたくさんあり、試したり、思考したりする環境の工夫がある。

グループワーク

今年度より、公開保育後に参加者によるグループワークを実施しています。6つのグループ(6~7人)に分

かれ、①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など③子ども

を主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何か?について協議をしました。その中で、出てきた質問と回答についていくつかご報告します。

(質問1)子ども時間の遊びは、担当を決めているのか。いろんなところで遊んでいるが、把握はできるのか。

(園回答)

◎遊びのコーナーは担当を決めている。子どもがどこで遊んでいるか、何に興味を持っているかは保育者間で共有しているので、把握できている。集中して遊んでいるところは、保育者は見守り、必要なところに入るようにしている。担当じゃないから知らないのではなく、必要と気付いたら関わるようにしている。

(質問2)各クラスの生活のスペースはなかったがどうしているのか。一斉活動はどうしているのか。

(園回答)

◎日頃から子どもの興味の様子や遊び込みの様子を見ながら、少しずつ変えているが、今はこのような遊びを設定をしている。

◎遊戯室を有効活用し、異年齢チームで食事

をし、3歳児の午睡も遊戯室を使っている。

◎製作は一斉にすることはない。おしゃれ工房のところ数人ずつが作っている。

(北野先生回答)

◎ある幼稚園では、運動会や外部講師を全部やめてみた。保護者の期待もあるが子どもたちの相互作用の中で、本当に楽しそう、本当に必要なものは何かと思いつながら、臨機応変にいろいろチャレンジしていくことを大事にしてほしい。

(質問3)漢字を使っているのはなぜ?

(溝邊先生回答)

◎漢字は「絵」ととらえる。概念形成の中に漢字が含まれる。例えば、「飛ぶ」という漢字をイメージしたとする。「飛蝗」この2文字でなんと、正解は「バッタ」。漢字を見ただけで漢字のイメージが出てくる。子どもは英語のものを日常的に見ている。それが入っていてもおかしくない。平気でイメージ化して頭の中に収めている。

(質問4)3歳児のタンポポドームにはどのような意図があるのか?

(北野先生コメント)

◎3歳児が自己発揮できる環境がタンポポドームだと思う。異年齢で相互作用する環境は、憧れ、一緒にやりたい、見て模倣することができる。同年齢の子ども同士の間は大きい子が試していたことを自分で試してみる、自分なりにやってみることができる。この二つの環境の距離も大事にしてほしい。

(質問5)遊びをより深く、広げるためにはどうすればいいのか?

(北野先生コメント)

◎没頭して遊ぶとは、単に遊んでいるところを認め、思いっきり好きな遊びをするだけではないと思う。

◎今の遊びにこだわってよりリアリティのあるものにイメージできるような保育者の援助と教材の十分さが必要である。より本物らしく、よりきれいに、より見せられるようにと、ここは教材と保育者の援助と見取りがないとできない。

◎ケーキ皿にケーキを置いて、そのまわりを雑

巾でもくもくふいている子どもがいた。自分の好きなものにこだわって作る経験が十分になされたら、次は作るところに没頭し、より本物らしく、より人に見せようと「他者」という視点が入ってくる。遊びの発展を意識することが大切だと思う。

(例)色水

没頭する→他者を意識する→よりリアリティがあるように発展することが可能である。

1歳まで…興味・関心

2歳…ものを入れて振る、色の認識

3歳…色作り、模倣

4、5歳…比較、見立て、実験

→この発達イメージを持って今の子どもたちの経験の蓄積はどうなのか、これからどのような援助をするのかを考えてほしい。

(質問6)このような子どもを主体とした保育を実践するためにはどうしたらいいでしょうか?

(溝邊先生コメント)

◎輪になって振り返りするとよい。いろんな園で悩んでいる先生はやってみる。オランダのイェナプランの研修会に参加した時に、異年齢でサークル対話をして、いろんなことを話していた。

◎最初と最後にやることで、遊びのきっかけ、今日はどうだった、明日はどうしたい、次はどうしようときっかけ・振り返り・見通しが持てる。

◎子どもの遊びが始まったり・まとまったり・次どうしようか、みんなで吟味・見通しを持つことになる。

カンファレンス 溝邊 和成先生

本物でこそ本物の遊びが生まれる。

本物へのアクセスは学び込む、遊び込む姿から生まれる。～溝邊先生指導・助言より～

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。

八雲の「八」にちなんで8つの写真を見ながら、コメント。

①ピンの中に入った色水

色が変化していることを学べる環境構成。「できた～だったね・おもしろかったね」ですまさない学びの本質につながっていく設定があった。

②どんぶりの泥水の中に緑の茎

葉っぱがついている茎から葉っぱをちぎって茎の所だけ持ってきて、緑の茎でラーメンを作っている。緑の茎はスーパーで買っているのと同じイメージで、つんできている。見立て方は本物への



アクセス。その環境があることはすごく大きな意味がある。

③ケーキ作りの机にあるピンに

それぞれ4種類の土が入っている。置くだけではっきりと土がどうなるのか、土と土が混ざったらどういふ変化が起きるのかわかっていく。遊びの本質を深める、遊び込むというアクセスが生じる。混ざったらどういふ変化が起こるか理解できる。

④ケーキ作り等をする道具は本物の料理器具。本物へのアクセスは本物でないといけないということ。

⑤子どもの作ったコーヒー(本物のカップ、ソーサー、スプーン、泥水、泡)

よく見るコーヒーはコップにただ色がついた水が入っていて、「コーヒー屋さん」として遊んでいるが、ここは本物。ソーサーまでつけてどうやれば、どういふ形で、どういふ姿になればコーヒーショップを開くことができるか模索している。**本物でこそ本物の遊びが生まれる。本物へのアクセスは学び込む、遊び込む姿から生まれる。**

⑥2歳児の保育室のパン屋さんコーナーに「パン屋」と漢字で書かれていた。「屋」という漢字

は小学一年生でも学ばない。パン屋がこの形、この色、この絵、看板の右側のお店の形が伴ってパン屋が成立する。こ



のシーンそのものが遊びのストーリーである。

⑦子どもが書いたコーヒー牛乳の文字「コーヒーぎゅうにゅう」をどう読んだらいいか？文字の順番ではない。これがコーヒー牛乳だと示している。このシーンを思い浮かべる。カタカナ、漢字、英語、ひらがな。自分が使いたい手段でイメージしている。ブラックコーヒーのコーヒーが「コフヒー」と書いてあった。

⑧男の子がコーヒーをこしている姿を一生懸命見ている女の子。

何が起きているのか、こうなるんだろうなと自分なりに大きな予測を持って結果を確認しようとしている。これこそがアクティブラーニングと言える。

カンファレンス 北野 幸子先生

子どもの声を素通りさせるのではなく、聞き流すのではなく、可視化し、かつ共有している。

極めて集団的な育ち・学びを促している。

～北野先生指導・助言より～

◎保育の評価者は子ども。保育は答えが一つではない。子どもも変わるし、普遍的な要素が確実にあるわけではない。それは、保育の探究が楽しいこととも言える。

◎八雲保育園はとことんチャレンジしている。主体性を探究している。

◎デンマークの保育は、好きな時にランチを食べる。園長の仕事はみんながご飯を食べたか把握するだけ、午睡も寝たいときに寝る。乳児はそうはいかないが、眠たくない子どもは午睡をしないでいい。お茶の水の附属幼稚園でもチャレンジしていこうとしている。

◎子どもたちの笑顔が多かった。

【乳児保育】

◎0、1歳児は目を見てのコミュニケーションがあった。未満児は、保育者とのラポール中心で保育者の顔を見ていることが多い。たくさんの子どものいるから、あれもこれも見て全体把握だけに気がいってしまうとその姿は見られない。

◎子ども同士が目を見て笑い合っている。日頃、保育者がじっくり丁寧一人一人に接している、とことん関わっている。

◎2歳児のごっこ遊びでは、ごっこ、見立てが多かった。

【保育者の関わり】

◎子どもの発言、問いかけに対する保育者の肯定的な言葉が多い。

例)「恥ずかしい」と言う子どもに、保育者が「そういうこともある」と返していた。「疲れた、おもしろくない」と言う子どもに、保育者が「おもしろいと思うよ。」と返す。

例)「真似した」と怒る子どもに、保育者が「真似していいことよ」と全体に伝えている。

◎ネガティブ・マイナスを全部肯定的に捉え、肯定的に返す。子どもへの影響は全然違うと思う。

◎保育者の「いつだってどんなこと？」という問いかけは、探究心を深めている。

◎子どものさらなる好奇心・意欲・発展を促す接し方がたくさんあった。

◎スタッフ同士の尊重を園が徹底している。管理職の方がスタッフに対し、肯定的。同僚性の形成・リーダーシップマネジメントができていく。

【環境】

◎遊びがおもしろくなる環境の工夫が至るところに見られた。泥も砂もすごくこだわっている。

◎おままごと、色水、泡の場所が5歳児中心のところと3歳児のところがある。十分に同じ教材がある。**5歳のところでは3歳が引き気味だが、よく見ている。モデルを見て、真似をしている。3歳のところでは3歳児が自己発揮している。2つを上手に組み合わせている。**

◎異年齢保育をしているところから出てくる質問に①語彙の差が著しいのに話し合いが一緒にできるのか、②鬼ごっこをした時等の運動能力の差が著しいのに一緒にしてもいいのか、がある。それは、空間と子どもの関わりと保育者の援助の工夫によって可能になるのではないか。

◎**年齢ごとの集団の活動を担保しつつ、かつ両者の相互作用があることは大事だと考える。**

◎空間の工夫、異年齢で遊ぶところと平行遊びが可能で空間・距離・教材がしっかりある。

◎おままごとのエスプレッソのコーヒーの泡をどれだけ具現化させるか。透明な水を作ろうと「こし器」や布でこして、しぼっている子どもの姿があった。

◎廃材、ペットボトルの多さが教材の豊かさ＝工夫。お金がないからできないのではなく、工夫によって教材を豊かにできるのではないか。

◎疑問・問いを上手に拾っている。種をとことん並べたり、水をすう花はどれ？名前は何？どれが一番重たいかな？→**子どもの声を素通りさせるのではなく、聞き流すのではなく、可視化し、かつ共有している。**極めて集団的な育ち・学びを促していると思う。

【設定保育は必要？】

◎豊かな経験を保障するために選択肢を十分

に作る。←選択肢のない子どもは遊びを選択できない。設定保育はあって悪くないし、短絡的には言えないと思う。

◎設定保育と好きな遊びは二項対立ではなく、好きな遊びとは、**小規模な設定保育が同時進行で行われていると考えている。**

◎楽しむ、親む、味わう…幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらい・内容が好きな遊びになくていい訳はない。

◎遠足に行った後、一斉に集めて紙を一枚配って絵を描かすことをやらない園が世界中で増えている。描きたい子ども5～6人ぐらいに保育者がついて絵を描く、あるいは作る、経験を表現する、感じた気持ちを表現するというねらいを達成していれば、それが設定保育になると考えている。

◎一斉にみんなでするのか、しないのかは子どもの様子、家庭教育環境の格差、経験の豊かさの格差を鑑みながらもっと柔軟に捉えてほしい。

【運動遊び・音】

◎歌の音、歌詞の内容、テンポ、リズムをどう捉えるか考えてほしい。

◎音の大きさはどういう機能か考えてほしい。

◎音遊び、リズム遊びをする時、見ている待っている子どもたちは何をしているのかも考えてほしい。

【振り返り】

◎保育者が子どもの名前をたくさんあげてくれてよかった。

◎用意された環境でしゃべらされていると、子どもが保育者に向かってしかしゃべらない状態になりやすい。一番しゃべらされているセリフ「～は、…で、一です。」これは言わされていることが多いと感じている。

◎子どもが子どもに質問するなど、創意工夫をしてほしい。